Dr. 健康コラム

# 風しんの流行と予防対策

城里町国保七会診療所　上井　雅哉

風しんの流行が続いています。流行を抑制するための予防対策についてお話しします。

## ■流行の続いている風しん

昨年７月頃から首都圏を中心に風しん患者が増え始め、１年間に全国で2,900人余りが罹患しました。患者数は、平成20年以降では２番目に多く、30～50代の男性が６割を占めています。今年１月以降、やや減少傾向にあるものの、依然高い水準で流行しています。風しん患者の急増は、県内でも確認され、今後数年にわたって流行が続くと懸念されています。

風しんワクチンの定期接種は、「先天性風しん症候群」の発生を予防するため、昭和52年から中学生女子を対象に始められました。平成元年からは男女児に対してＭＭＲワクチン（麻しん・風しん・おたふくかぜ三種混合ワクチン）が用いられるようになりましたが、接種者1,200人に１人の割合で無菌性髄膜炎が発症したことから、平成６年４月以降ＭＭＲワクチンは使用されなくなりました。その後、おたふくかぜワクチンが原因であることが判明しましたが、麻しん・風しんワクチンまで接種率が低下したため、麻しん・風しんの免疫を持たない成人が多くなったと推定されます。

## ■風しんの症状

風しんは、風しんウイルスによって発症する発疹性感染症です。潜伏期間は２～３週間で、発疹の現れる数日前から、発熱や上気道炎症状、耳の後ろや頚などに痛みを伴うリンパ節の腫れが認められます。発疹は顔から全身に広がり、４日ほどで出現した順に消えていきます。風しんに特効薬はなく、一般的に症状は軽く自然治癒するので、特別な治療は必要ありません。

ただし、妊娠早期（16週以前）の妊婦が風しんに罹患すると、胎児がウイルスに感染し、心疾患や難聴、白内障などの先天性風しん症候群を引き起こすことがあります。

## ■風しんの予防対策

対象者別の風しん予防ポイントは次のとおりです。

**①妊娠を予定または希望している女性**

抗体検査で免疫が不十分な場合、妊娠前にワクチン接種をしましょう。接種後２か月程度は弱いウイルスが体内に残る可能性があるため、妊娠を避ける必要があります。

**②妊婦**

妊娠中はワクチン接種ができません。抗体検査で免疫が不十分な場合、妊娠20週までは感染を避けるため、人混みに近づかないようにしましょう。

**③妊婦の同居家族**

抗体検査で免疫が不十分な場合、ワクチン接種をしましょう。妊婦の周囲の者が感染しないことが重要です。

**④昭和37年４月２日～54年４月１日に生まれた男性**

風しんの定期接種を受ける機会がなく、流行の中心となっている39～56歳の男性は、抗体検査で免疫が不十分な場合、ワクチン接種をしましょう。

これらは、今すぐにとるべき対策ですが、重篤な合併症を避けるためには、本来の定期接種（１歳時・就学前の２回接種）を漏れなく受け、社会全体で風しんの流行を抑制することがとても重要です。

※町では、大人の風しん予防接種費用を一部助成しています。詳細は、健康保険課（☎029－240－6550）までお問い合わせください。

# 城里町ファミリーサポートセンター利用会員・協力会員募集！

城里町ファミリーサポートセンターは、子育てを援助してほしい方（利用会員）と、子育てを援助したい方（協力会員）がお互いに助け合う会員組織です。

仕事の都合で保育施設の送迎に間に合わない、一時的なお子さんの預かりや産前産後の家事支援など、有料でお手伝いをします。お気軽にご相談ください。

ファミリーサポートセンターでは、利用会員と協力会員を随時募集しています。会員になるためには、会員登録が必要です。

申込方法や利用料金、活動時間等の詳細は、問合せ先までお問い合わせください。

▲ファミリーサポートセンター会員交流会の様子

**申込先・問合せ**　城里町社会福祉協議会　☎029－288－7013